

「平和」を考える

終戦から74年目の夏。戦争を知らない世代が多くなった今でも、戦争を風化させず、平和について考えるため、毎年、市内でさまざまな行事が行われています。

8/4

本当の平和とは何か？

二日市中学校平和集会・平和劇



「人は知らないうちに差別者になる」佐々木さんの家族らを演じる

159人の生徒が実行委員として運営した二日市中学校の「平和集会・平和劇」。広島市での現地調査などの事前学習を重ね、劇では、白血病により12歳の若さで亡くなった広島平和記念公園の「原爆の子の像」のモデル、佐々木禎子さんとその家族について描きました。

像の設置のために寄付金を集めたことを「金儲け」と非難された佐々木さんの家族ら。その苦悩を中学生の身近にもある偏見と重ね「戦争がない世界だけが平和ではない」「小さな平和が大きな平和をつくる。相手を知らうとすることが平和への一歩」と訴えました。

終幕後には意見交換が行われ、生徒からは「まずは身の回りの差別やいじめなどをなくしたい」など、多くの意見が発表されていました。

8/8

語り継ぎ、平和を誓う

被災者の追悼と筑紫平和シンボル継承のつどい



毎年千羽鶴を捧げる下見保育所の子どもたち

終戦間近に起きた「西鉄筑紫駅列車銃撃事件」の犠牲者を追悼するために、事件から74年が経過したこの日、筑紫区ではつどいを開催し、約50人が参加しました。犠牲者に黙とうを捧げ、筑紫平和祈念館において祈りを捧げました。

この事件は、昭和20年8月8日に筑紫駅付近で西鉄の電車上下線の各車両を米軍の戦闘機が銃撃を行ったもので、多くの犠牲者が出ました。つどいの後には、従来の記録よりも多く、100人以上の犠牲があったのではないかと、市文化財課による調査報告が行われました。

筑紫区の大石区長は、「この惨事を語り継ぎ、平和の誓いを新たにしていって継承するべく今後も続けていきたい」と話していました。

8/9

「生きる」ということを考える

筑山中学校平和集会・平和劇



隊員が出撃司令を受けるシーン

先の大戦中に行われた「特攻隊」による攻撃。今年の筑山中学校の平和集会では平和劇のテーマを「いのちの使い方」とし、特攻兵器の一つである人間魚雷「回天」を取り上げました。

回天の訓練基地があった山口県大津島を生徒が訪問し、その結果を現地調査として報告。「現地に行き、見たり触ったりすることで当時の様子を感じ取ることができた」といいます。平和劇では、特攻隊として志願した若者を通して、今を生きる生徒ができることを描きました。

今回の平和劇では、実行委員として参加した2、3年生50人が、出演者、衣装、大道具などの役割をこなしました。生徒会長の黒川和さんは、「平和劇を通して一人でも多くの人に命の大切さや平和の尊さを伝えたい」と話していました。